

★時

2011年8月12日(金)～8月15日(月)

★場所

長野県/中房温泉→大天井ヒュッテ→天上沢→北鎌尾根→槍ヶ岳→槍沢→上高地

★ルート

12日

大谷P→中房温泉P(泊)

13日

中房温泉P→大天井ヒュッテ→貧乏沢→天上沢(野営)

14日

天上沢→北鎌沢→北鎌尾根→槍ヶ岳→殺生ヒュッテ(野営)

15日

殺生ヒュッテ→槍沢→上高地

★参加者

新海さん	リーダー
勅使河原さん	サブリーダー
谷内さん	
福田さん	
小林さん	
亀井さん	
筆者	食糧担当

★概要

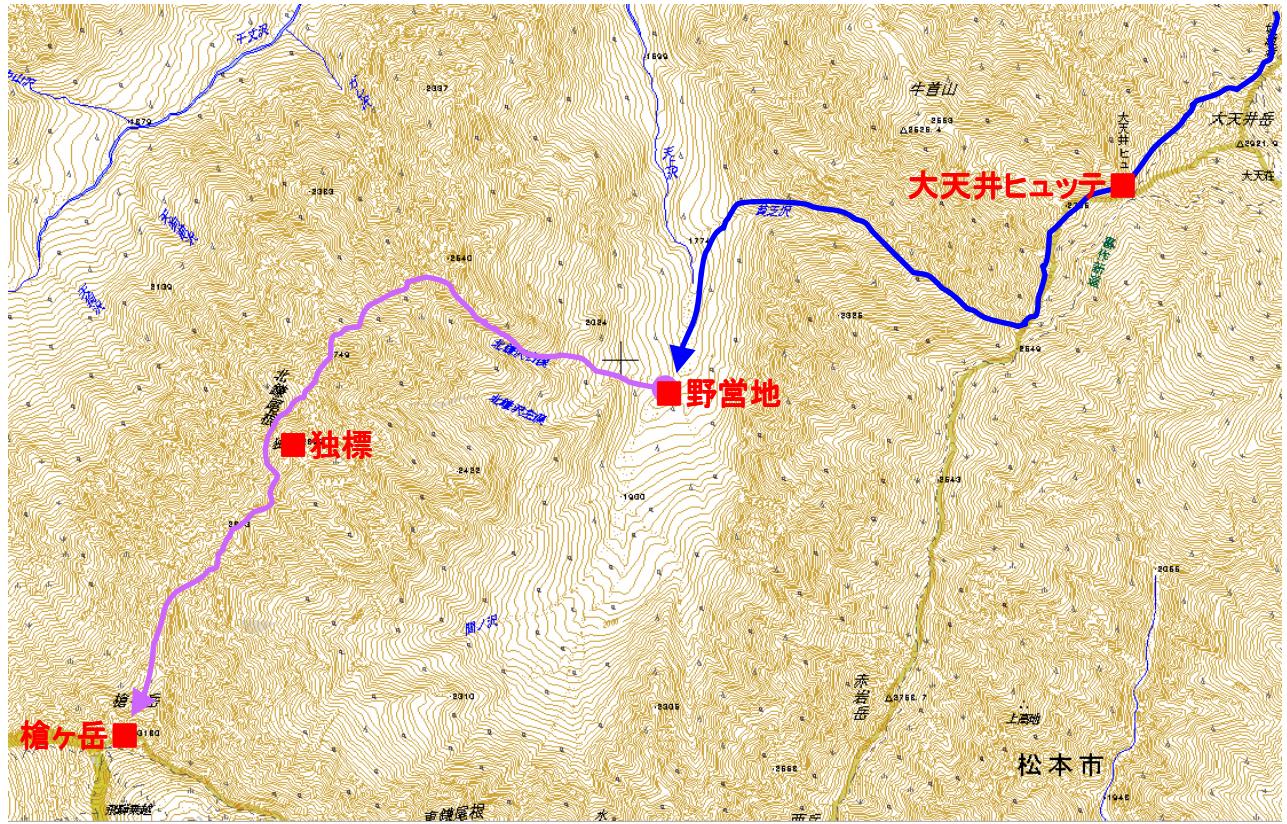
槍ヶ岳北鎌尾根を総勢7名でぞろぞろと歩いた。

連日の好天に恵まれたが、むしろ天気が良すぎて体力を奪われた。

北鎌尾根はよく踏まれていた。当日にも複数パーティーが入っていた。

当初の計画では東鎌尾根を帰る予定だったが、歩くのにうんざりしたのと、山ガール  
目当てで上高地におりた。そういう意味で今回は敗退である。

中房温泉へ↑



↓上高地へ

## ★0 日目

大谷Pに20時集合。福田車、勅使河原車に分乗して出発。  
筆者は福田さんの車に乗る。車内のメンバーは福田さん、亀井さん、谷内さん、筆者。  
中房温泉付近は狭いうねうね道であった。亀井さんが車酔いする。  
駐車場にテントを張って就寝。すぐ下を川が流れ、かなり涼しい。

## ★1 日目

やや晴れ。夜明けぐらいに起きる。  
登山口にはベンチやトイレがあり整備されている。かなりの人出。  
北ア三大急登のひとつである合戦尾根を登る。斜度はたいしたことなく看板倒れである。男体山の中禅寺湖側ルートくらいか。風が通らず暑い。  
8時半に合戦小屋着。ここはスイカが売っていることで有名であるが筆者は初めて見た。小林さんが購入。  
合戦小屋への荷揚げ用にロープウェイがある。「しんでえな、あれに載せてくれねえかな」と、はやくもぼやきモード。  
30分くらい登ると、開けた場所にでる。風が抜けて爽快である。燕だけでなく、ときおり槍が見える。  
空は快晴。  
10時まえに燕山荘着。北鎌尾根が一望できる。筆者はむしろ隣の硫黄尾根が気になる。  
休憩していると稜線の上には雲が出てきた。大天井への道を歩く頃には北鎌尾根の上部は雲の中。



燕山荘で山ガールをナンパして途中までご一緒。いやがおうでも士気が高まる。「今日のうちに北鎌のコルにいけるんじゃね?」なんて場面も。

大天井ヒュッテに13時過ぎ着。筆者はすでに水を2.5L飲みきったため、小屋で購入。冬はテルモスの0.5mLのみで行動することを考えると飲み過ぎか?

さらに縦走路をすすむと「貧乏沢下降」の看板あり。14時半くらいか。最初はハイマツがうるさいが、すぐに明瞭な踏み跡が出てくる。ただ、岩がごろごろしていて歩くのに疲れる。

15時半に中間地点の滝に着く。ここまで涸れ沢であったが、ここからは水が流れている。去年は雪渓が残っていたらしいが、今年はあらかた溶けている。ここから巻き道を下る場面が多くなる。巻き道

は左岸についているが足元が悪い。個人的には沢の中を下るのが楽だったが、皆は巻き道のほうがよさそうだった。

全員疲労の色が濃くなってくる。「もう二度と夏に北鎌なんて来ねえぞ」というセリフがちらほら聞こえ出す。

17時ごろ天上沢にぶつかる。遡って行くと、途中で沢が涸れて、左岸に北鎌沢が見える。ここでテントを張る。我々の他に5パーティーくらい。

北鎌尾根と東鎌尾根に挟まれた天上沢はひっそりとしていて筆者は気に入った。水も冷たくてうまい。



夜はマーボー春雨丼とたまごスープ。筆者が調理法の書かれた袋を捨ててきたので、適当な分量で作る。小林さんが(おそらく)渓嶺史上初めてお湯を入れたアルファ米をこぼすが、なんとなく許される。

夜は暑かった。シュラフを脱いでも暑かった。こんな暑いのは初めてである。いつも3秒でお休みになる勅使河原さんが寝れなかったというほどである。だた、パジャマ持参の小林さんは安眠だったらしい。

## ★2日目

快晴。3時に起床。朝食はラーメン10食。カロリー摂取のために粉チーズなどをかける。

北鎌沢の入り口で水を汲む。しんどい人は2.5Lくらいでいいよ、なんて話していたが、筆者は結局この日4Lくらい飲んだ(3.0L汲み、さらに歩きながら北鎌沢の水を1L飲んだ)。ビバークの可能性もあるので、担げるなら4L持っていくのが安心である。

4時過ぎ発。北鎌沢はごろごろしているが浮き石はなく快適。夜明け前ですしこそして軽快に登る。後ろを振り返ると東鎌尾根の空が白んできている。一瞬間違えて左股に入るが、あきらかに悪いのですが気付いた。朝露でソックスを濡らすのがいやでスパッツを持参したが、草つきがあるのは上部のみで、スパッツは不要だった。早朝に貧乏沢を下る日程なら必要かもしれない。

6時半に北鎌のコル。登攀具を付ける。単独行が1組いた。

危なげないハイマツ帯(途中にビバークサイトがたくさんあった)を歩いて8時半に独標基部。ここは千丈沢側をトラバースする。直登しているパーティーもあり。トラバースの核心部は残置ロープありで楽勝。

たしかこの後に残置ディジーがあるチムニーがあった。頂上直前のチムニーよりも難しい。新海さんは突破したが、右に巻くこともできた。

その後、非常に狭い空間をくぐるところがあり、ザックが引っかかるか緊張した(9時半ごろ)。はたして、筆者のロープ入りザックは引っかかって苦労した。ロープを千丈沢へ投げ捨てたかった。



その後、トラバースが悪いので稜線へ転じる。道が悪かったのでロープを出したかもしれない(捨てなくてよかった)。出たところが独標の頂上のちょっと先だった。

稜線を軽快に歩く。下の写真は12時頃。コースタイムより遅れ気味。頂上に着くころには曇っているだろう。



この後、他パーティーが稜線を進むところを、我々は千丈沢側をトラバースするが、途中まで来てから道が非常に悪くなり、このままいくか否かでもめる。最終的に再度稜線に戻る。ルート選択は稜線を試して、だめなら千丈沢側をトラバース、というのが基本かもしれない。

稜線を上り下りしつつ、14時には槍の基部へ。頂上はガスってしまった。でかい岩の上を歩く。ルートをたどれば浮き石は少ない。15時に下のチムニー着。上のチムニーで一応ロープを出す。3パーティーくらいが渋滞。写真はチムニー登ったあと。ときおりガスが晴れた。



15時半ごろ山頂。人人、30人くらいいたかも。早々に退散。

槍ヶ岳山荘でテント張れず、殺生ヒュッテ送り。

夕食はカレー。外で準備していると大粒の雨。いやあ、ここまで天気が持つてよかったです。

### ★3日目

快晴。みなさんお疲れなので、東鎌尾根はあきらめて上高地に下る。

今日の朝もラーメン10食(1kg)。

横尾からお気に入りの山ガールを追いかける新海、谷内両氏のペースにはまったく追いつけなかった。  
どこにそんな力を残していたのか。

12時に上高地。

中房温泉まで行ってくれるワゴンタクシーが見つかる。ついている。小林さんが助手席からトークで盛り上げる。運転手は播隆上人と登った中田又重郎の末裔らしい(それとも、播隆上人の末裔だったか?)。当時は蝶ヶ岳の稜線から槍沢に下ったらしい。孫が最近そのルートを登ったとかなんとか。

中房温泉にもどったあと、運転手のおススメの温泉に入る。非常に良い。

昼飯は運転手おススメの蕎麦屋。これまた非常に良い。

一路宇都宮へ。

### ★感想

道中何パーティーも見かけ、北鎌尾根は人気のルートであることが偲ばれた。

天気が良かった。翌日から崩れたので、われわれは運が良かった。

北鎌尾根は体力勝負であると感じた。貧乏沢の下りは体力を消耗するからか、話をした他パーティーは槍沢からきている人が多かった。

これから北鎌(晴天)をやろうという人は、難易度的には 1、カモシカ山行を標準タイムで歩く体力  
2、古賀志3級ルートを登山靴+荷物で登る技術 があれば、余裕をもって登れると思う。

ルートファインディングは多少必要。踏み跡が至る所にあるので、それにつられて、戻ってこられないところまで突っ込んでしまわないように気をつける。

雨天時は経験してないのでわからないが、やはり、技術よりも体力の気がする。稜線上は雷をよける場所がないので注意。